

甲状腺機能低下症による高 LDL 血症が原因の閉塞性動脈硬化で前肢端が壊死脱落したと疑われる犬の 1 症例

江口邦昭

江口動物病院・佐賀県

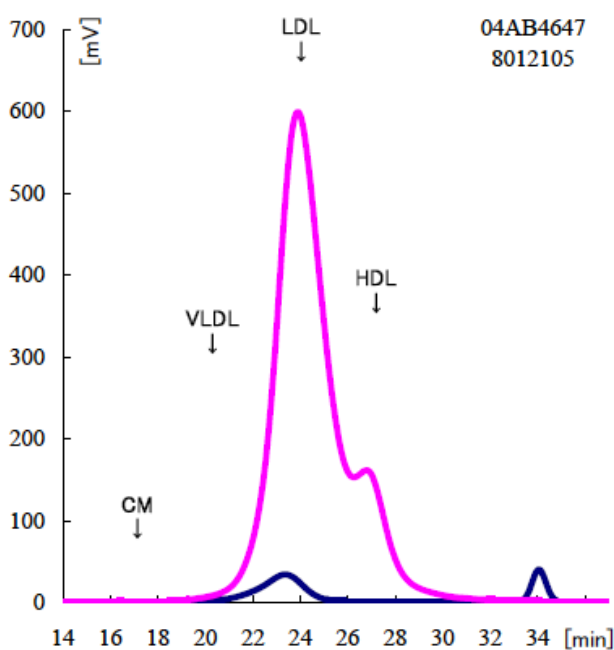
1.はじめに:ヒトにおいて高LDL血症が継続すると粥状動脈硬化を引き起こす。好発部位は、頸動脈～脳動脈、心臓の冠動脈、および足の動脈です。やがて血栓を作り脳梗塞、心筋梗塞、狭心症の原因となる。また足の粥状動脈硬化は、コレステロールが血管の壁にたまって内腔が狭くなり、ついには閉塞し足に血液が流れなくなり放っておくと壊死してしまう閉塞性動脈硬化症を引き起こす。ヒトと違い正常の犬においてLDLは存在しないか少量である。それ故にヒトのような粥状動脈硬化や閉塞性動脈硬化症は犬では存在しないと思われていた。今回、甲状腺機能低下症による高LDL血症がヒトと同様に動脈に蓄積し、閉塞性動脈硬化を起こし前肢端が壊死脱落したと疑われる犬の 1 症例に遭遇したので報告する。

2.症例:シェルティー、12 才、雌。2 ヶ月前に前肢にナックリングが生じた。他院にて治療後良好だったが前肢の先端が腐ってきたと当院に来院。身体一般所見:両前肢端のミイラ化、右後肢外側に潰瘍。血液検査所見:WBC(40500/ul)の上昇、貧血(HCT20.0%)、T-cho(589mg/dl)および ALP(>4000IU/L)の上昇、T4(<0.47 μg/dl)および fT4(<0.08ng/dl)の低下、C-TSH(1.25ng/ml)の上昇が認められた。LipoTEST 所見:LDL コレステロールの著しい上昇が認められた。

3.治療と経過:以上の結果より甲状腺機能低下症および脂質代謝異常と診断。壊死部に対しては連日の洗浄および抗生剤を投与、甲状腺機能低下症に対してはレボチロキシナトリウム(11 μg/kg bid)を投与、高 LDL 血症に対しては第 15 病日よりフラバスタチンナトリウム(1mg/kg sid)の投与をおこなった。第 20 病日:前肢端および右後肢外側の潰瘍部は良好に回復してくるが、左後肢の第 4, 5 指および鼻先端が新たに壊死し始める。第 96 病日:WBC(12700/ul)、HCT(44.5%)、T-cho(299mg/dl)、ALP(68IU/L)、T4(2.84ug/dl)、fT4(0.74ng/dl)。LipoTEST にて高 LDL の改善が認められた。

4.考察:今回の症例で壊死脱落の原因と思われる粥状動脈硬化や閉塞性動脈硬化の確定診断をすることはできなかったが、甲状腺機能低下の治療、高LDL血症の治療を行うことで著しい改善が見られたこと、また経験的に脂質代謝異常の多いシェルティーに発生したことから、ヒトと同様に粥状動脈硬化、閉塞性動脈硬化による血流障害を起こし前肢端が壊死脱落したことが十分に示唆される。

LipoTEST:初回の波形(第1病日)



LipoTEST:2 回目の波形(第96病日)

